

効果報告レポート

【事業者名】

コトバンク株式会社

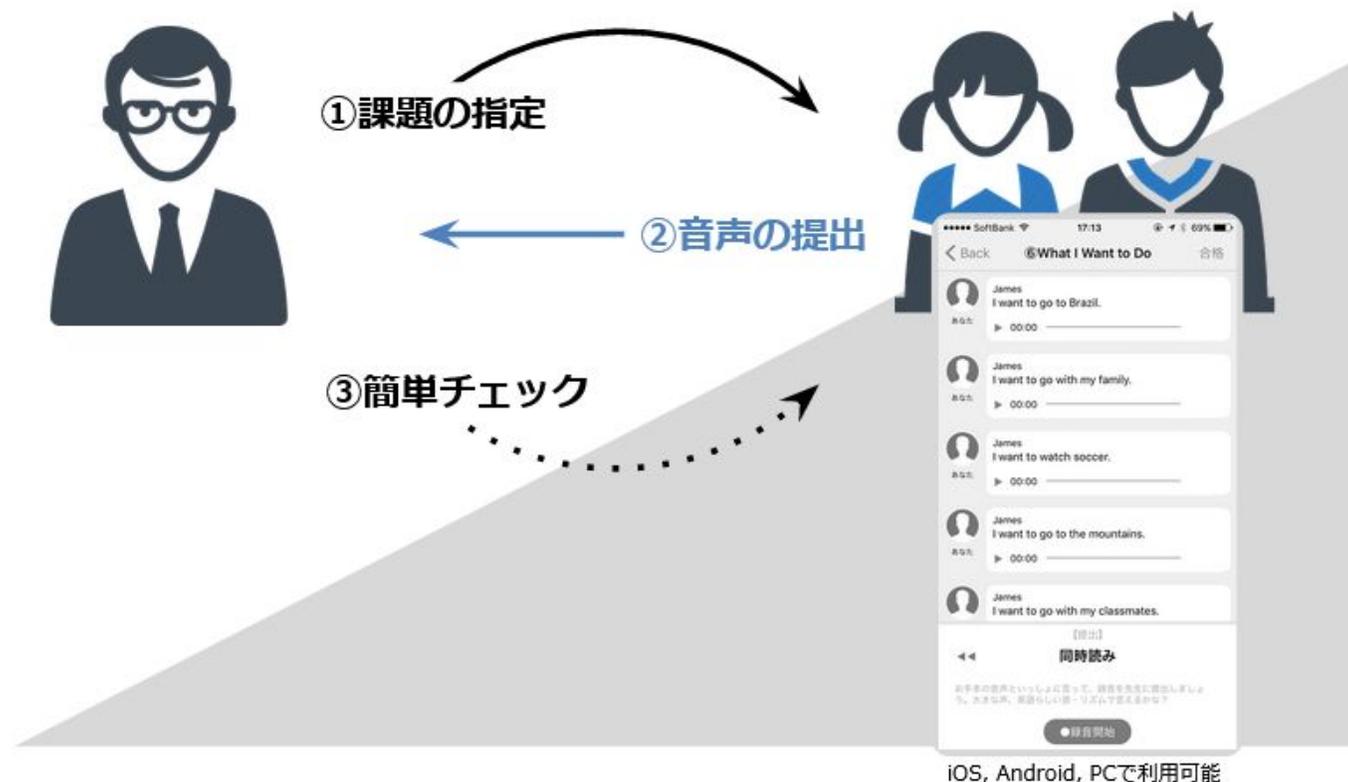
【ツール名】

音読指導アプリ「RepeaTalk」

【ツールの機能分類】

オンライン語学学習

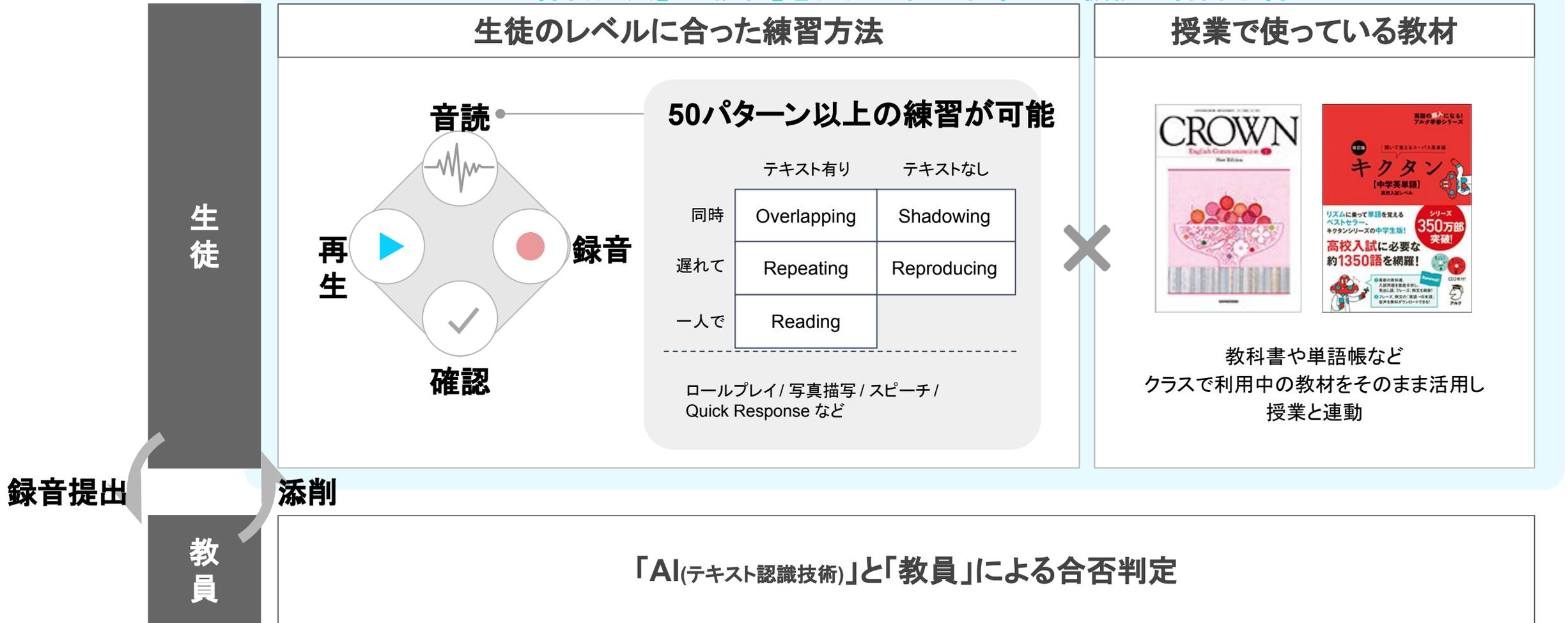
2023年2月



■ EdTech ツールの概要

RepeaTalkは「練習方法」と「教材」を自由に組み合わせて音読練習ができるアプリです。
1生徒月額600円でご利用いただけます。

「練習方法」と「教材」を自由に組み合わせる機能で特許取得



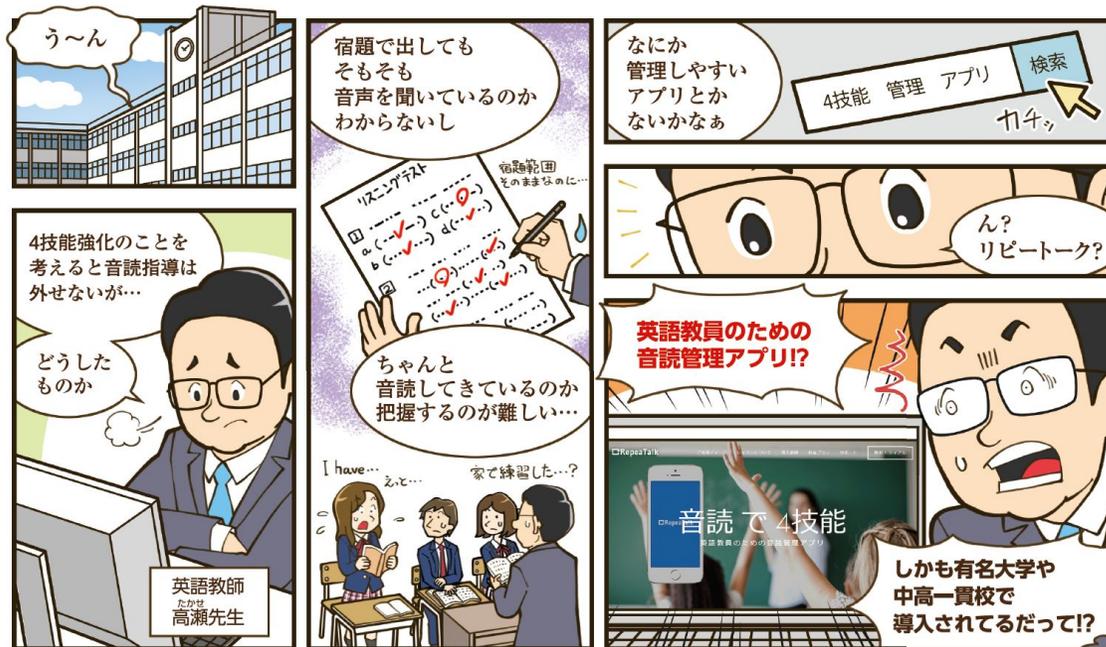
93% 音読課題 取り組み率 “やらない9割”がアクティブに

十文字中学校・高等学校 高瀬聡伸先生インタビュー

導入の結果、十文字学園では90%の生徒が家庭で英語にふれるようになりました。30%の生徒が、授業の進度にあわせて音声を提出しています。60%が締切前にまとめて出す生徒です。今までは上位10%がCDを聞いていればよいという感じでしたが、リピートワークでその割合が逆転しました。ICTツールには活用のコツが2つあると思います。1つは、授業及び評価と連動させること。2つは、教員に負荷をかけさせないこと。

まず1点目ですが、リピートワークは、授業で使用している教材がそのまま使えるため「アプリで音読→定期テストの得点UP」という構造が作りやすく、練習を継続させやすいです。同時に、教員にとっては余計な教材を増やさなくてよい点が魅力です。

▼マンガ化された高瀬先生のストーリー



2点目は、教員にとっての生命線です。生徒に音読はさせたいですが、数百もの録音音声を1つ1つ聞いてフィードバックすることは不可能です。しかしリピートワークのAI採点機能を使えば、教員は自動で負荷なくフィードバックが行えます。また、生徒の状況にあわせて手動でコメントしてあげることも、自由にできます。私の場合は、日常的に音声を提出する30%の生徒にはなるべく丁寧にコメントを返してあげる一方、締切前に駆け込みで提出された音声についてはAIで一括採点しています。

ICTの導入で、教師は授業外でも生徒の学習活動が容易にチェックできる時代になりました。別の見方をすれば、教師の負担は確実に増えていきます。生徒も教師も気がいすぎず、無理のないペースで取り組めるのがいいですね。

■ 学校等教育機関の抱える課題

英語の4技能習得が重要視されており、その有効な手段の一つとして音読練習が存在する
コロナ対応により、音読練習を授業時間内で行うのが困難になった

*音読練習とは、音声を聞く、文章を読む、発音するを組み合わせた英語の練習方法を指します。具体的な練習パターンは複数存在します。

課題

授業外での音読練習の量を
先生が正確に把握することが困難

練習方法の指定や個別フィードバック等
授業外での音読練習の質を先生
が管理することが困難

指導効率の観点から
個別フィードバックを授業内です
ることが困難

教員向け音読指導アプリ「RepeaTalk」: 先生が生徒に音読練習の課題を課し、それを管理しやすくするアプリを導入する

解決への 仮説

授業外の音読練習の量と質を管理することが可能となる

個別フィードバックを授業時間外
で行えるようになる

期待される 変化

授業外の音読練習の量的変化
・音読時間が把握可能に
・音読練習時間が変化

授業外の音読練習の質的变化
・練習方法が把握可能に
・音読練習方法が変化

個別フィードバックの変化
・個別フィードバックの実施頻度
が変化

■ EdTech導入補助金2022における活用事例

全国12校29クラスにおいて、各クラスに最適化された音読課題(練習方法教材)をRepeaTalkに設定した授業外で生徒が課題を実施し、教員が評価をした

授業内

教室で教科書を用いて英語教員が指導を行う

本事業では29クラスに導入し、25種類のテキストが利用されていた

※RepeaTalk導入クラスの担当教員にヒアリングをし、ニーズに基づき、テキストに準拠した音読課題を設定した

※授業外で活用するオンライン学習ツールのため、授業風景はございません

授業外

教員が設定した音読練習課題を生徒が授業外で実施

生徒が提出した音読練習課題に対して教員が個別フィードバックを授業外で実施

①聞く

指定課題を聞く

②録音する

「あなた」の箇所を話す録音を提出

④振り返る

添削結果を確認・再学習

③評価

録音を聞き、個別添削する



■ 補助事業において実施したサポート内容

サポート体制

弊社スタッフ15名が先生が考える理想的な練習環境実現をサポート

導入～オンボーディングまでの支援を標準化
加えて、ヘルプデスクを運営

お問い合わせフォーム・WEB会議システムを活用してサポートする

サポート内容

■ 導入サポート

① 授業で利用するテキストに沿った、教員が理想と考える音読練習の課題を設定するサポート

- ・音声、テキスト、画像の加工作業サポート
- ・練習パターンをRepeaTalk上で登録するサポート
- ・個別添削支援を行うAIの設定サポート

② ID発行、マニュアルの配布のサポート

③ 教員・生徒への使い方の案内

■ 導入後のヘルプサポート

④ 導入後、操作方法や活用方法に関するヘルプサポート

※通常サービスの一環

自治体・学校へのサポート対応等を原則オンラインで行ったため、画像はございません

参考：以下2校は同じ教科書を利用するも、ニーズが異なるため、練習パターンが異なります。
サポートでは、先生が考える理想的な練習環境の実現するお手伝いを幅広く行っています。

A校

The screenshot shows the 'Repeating with J' lesson interface. The left sidebar lists 'Steps (6)' with 'Repeating with J' selected. The main content area shows a 'text' box with the text 'カルシア、アンディ、メグミ、' and a play button. Below it, another 'text' box shows the same text. The interface is in Japanese and includes a '録音開始' (Start Recording) button at the top right.

B校

The screenshot shows the 'Shadowing' lesson interface. The left sidebar lists 'Steps (6)' with 'Shadowing' selected. The main content area shows a 'text' box with the text 'カルシア、アンディ、メグミ、' and a play button. Below it, a '録音したボイスを再生して確認してから、次のステップへ進みましょう' (After playing back the recorded voice to confirm, please proceed to the next step) message is displayed. The interface is in Japanese and includes a '録音開始' (Start Recording) button at the top right.

■ EdTech導入補助金2022における導入実績

EdTech導入補助金を用いて、12校に導入いただき、4429名の生徒様にご利用いただきました

学校設置者	学校名	導入学年
学校法人鳥取家政学園	鳥取敬愛高等学校	高1
学校法人田園調布雙葉学園	田園調布雙葉中学校	中1、中2
	田園調布雙葉高等学校	高1、高2
学校法人日出学園	日出学園中学校	中1、中2、中3
	日出学園高等学校	高1、高2、高3
学校法人金光学園	金光学園中学校	中1、中2、中3
学校法人富士見丘学園	富士見丘中学高等学校	中2、中3
安来市教育委員会	安来市立第一中学校	中1、中2、中3
徳島県教育委員会	徳島県立徳島北高校	高1、高2
長崎県教育委員会	長崎県立佐世保北中学校	中1、中2、中3
岡山県教育委員会	岡山県立岡山一宮高等学校	高1、高2
学校法人法政大学	法政大学第二高等学校	高1

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

検証項目

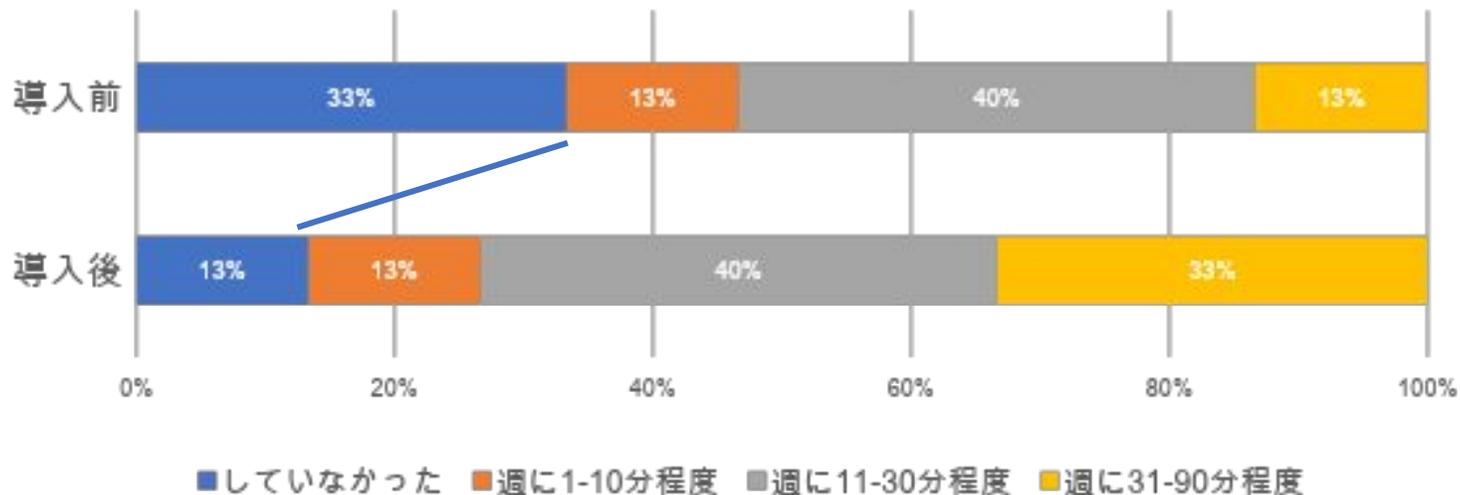
授業外の音読練習の量的変化

検証結果

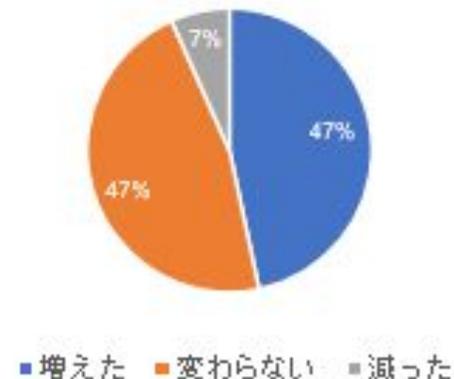
導入校で授業外の音読練習時間が増加

- ・授業外で音読練習をしていなかった教員が半減(導入前33%→導入後13%)
- ・導入後47%の教員が音読練習時間を増やした

RepeaTalk導入前/導入後の授業外で英語の音読練習時間



RepeaTalk導入前/導入後の授業外で英語の音読練習時間



対象: 本事業の導入校教員 15名(各校1名以上)

設問: RepeaTalk導入前/導入後 は、授業外で英語の音読練習をしていましたか? していた場合は、何分程度していたかを教えてください。

算出方法: 左記設問への回答から算出

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

検証項目

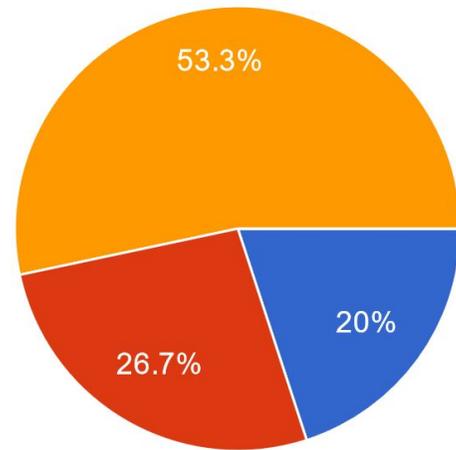
授業外の音読練習の質的变化

検証結果

ニーズにあった音読練習が実施され、教員がその状況を把握できている状況に変化

- ・77.3%が授業外の練習状況把握できていない状態から、状況を把握しフィードバックできる状態に変化
- ・全クラスにて個別化された課題を展開し、練習方法に対し80%の教員から4以上の評価を得た

RepeaTalk導入前、授業外で英語のリスニング・スピーキング練習状況把握



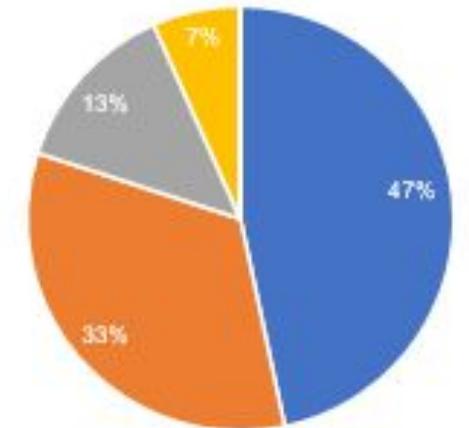
- 練習を指示をしていなかった
- 全く把握はできていなかった
- あまり把握できていなかった
- ある程度把握できていた
- 完全に把握できていた

対象: 本事業の導入校教員 15名(各校1名以上)

設問: RepeaTalk導入前、授業外で英語の音読練習状況を把握できていたと思いますか?

- ・全クラスで教員ヒアリングに基づいて個別化された課題を展開
- ・全教員が生徒の音読練習状況を把握し、個別フィードバックを実施

RepeaTalkに登録できるステップ・練習方法の評価



- 5 = 練習方法は適切である
- 4
- 3
- 2
- 1 = 練習方法は適切でない

対象: 本事業の導入校教員 15名(各校1名以上)
設問: RepeaTalkに登録できるステップ・練習方法を評価してください

■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

検証項目

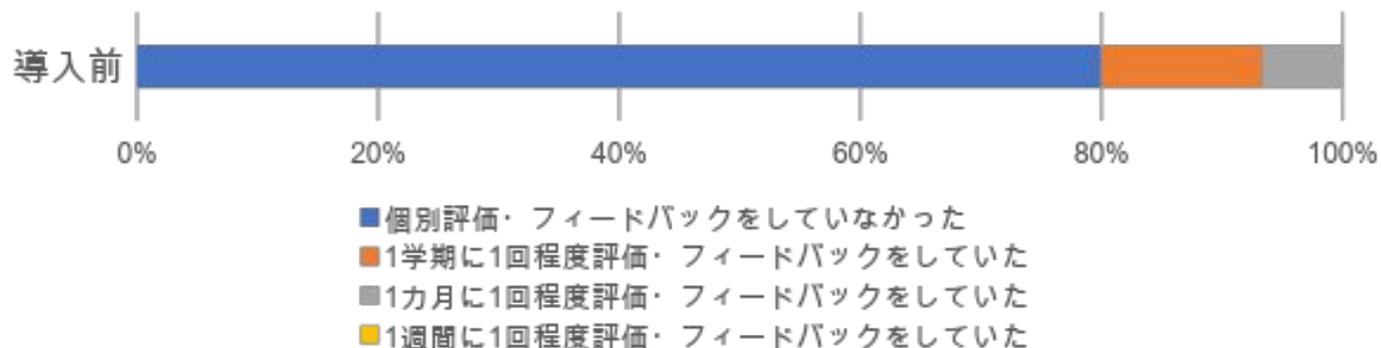
個別フィードバック方法に対する変化

検証結果

個別フィードバック頻度が増加

- ・個別フィードバックを行っていない教員が80%から0%に変化
- ・RepeaTalkの添削補助機能に対して、教員は46%から4以上の評価を得た

RepeaTalk導入前/導入後の
生徒のスピーキング能力に対する個別評価の変化

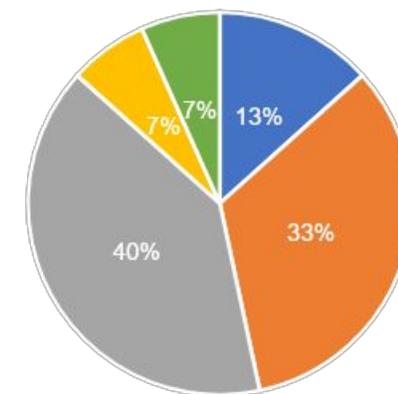


RepeaTalk導入後、全校で1か月に1回以上個別添削が実施された

対象: 本事業の導入校教員 15名 (各校1名以上)

設問: RepeaTalk導入前/導入後は、生徒の音読練習結果に対して個別評価・フィードバックはしていましたか？

RepeaTalkの
添削補助機能に対する評価



■ 5 ■ 4 ■ 3 ■ 2 ■ 1

5 = 添削補助機能が十分である

1 = 添削補助機能が不十分である

対象: 本事業の導入校教員 15名 (各校1名以上)

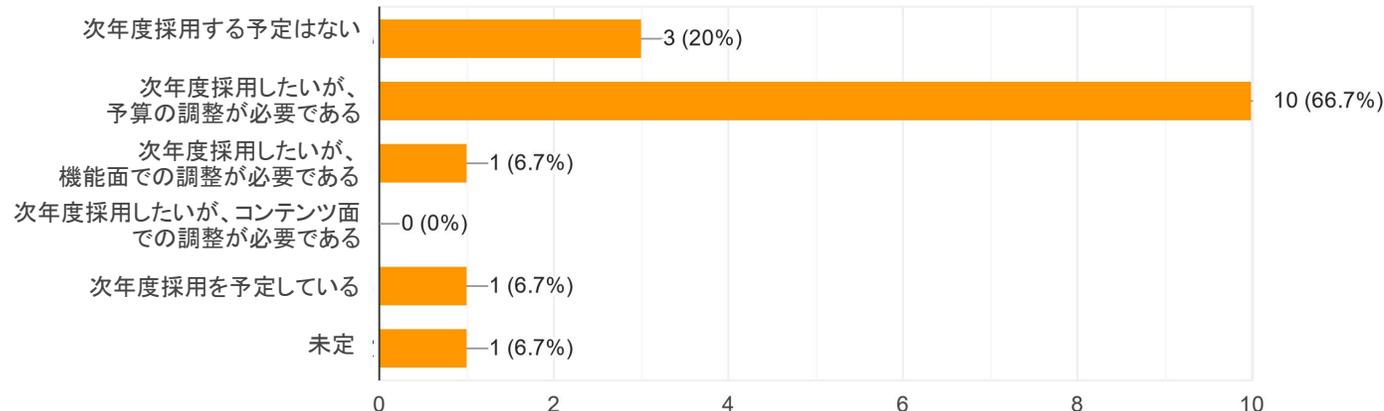
設問: RepeaTalkの添削補助機能の評価をください

■ EdTechツールを活用した児童・生徒・教員のコメント感想等

教員のコメント①

RepeaTalkのフィードバックのしやすさはとても画期的であると感じる。一致率という目に見えやすい基準で評価できる部分もよいと感じた。現実、音読のフィードバックにはほとんど時間をかけずに生徒とやりとりすることができた。一方で、未提出者等の対応に追われ、手が回らなくなったことは否めない。また課題として課された生徒たちへの負担も増してしまっことは事実である。このような状況のなかで生徒、教員ともにReapeaTalkまで手が回らなくなってしまった学年がある。

次年度(2023年4月以降)の継続への意向



教員のコメント②

とても活用しやすく、何よりも基礎基本に徹底できることが素晴らしいです。各々に異なる課題(選択制)を選べる教材の種類があると、週末の課題などに出題しやすいです。

生徒のコメント

特に無く、素晴らしい出来だと感じました

家の中が騒がしく静かな時間があまりないので、家庭の音が入り自分の声が聞こえづらく何度も録音しないといけないのが大変でした。

一回提出したら、返却してもらうまで提出が出来ないのでそこを改善してほしい。

苦手なポイントをまとめてほしい(自分にあった復習をしたい)です

■ EdTechツールの導入・運用における課題とその改善策

「教育に、最高の道具を」を具現化するべく、本事業での学びも反映し、改善を図っていきます

RepeaTalkの 課題と解決策

課題①

RepeaTalkの添削補助機能に対して、教員は46%から4以上の評価を得ており、改善の余地が大きい。

課題②

生徒負担が重すぎ、そのフォローをするのに先生が追われてしまっているケースが発生した。

課題③

価格(年間契約で月額600円/生徒・税別)が高く、自己負担ができない

解決策①

- ・録音する音声の質的向上を図るためのアプリ改善、運用のサポートを実現する
- ・利用実績のモニタリングの粒度を高め、よりタイムリーに教員サポートを実施できるようにする。
- ・ニーズのヒアリングを実施し、機能の拡充を図る

解決策②

・これまで教員の理想状態実現を目標としてきた。設定した課題が生徒にとってどのような負担も考慮した最適なバランス実現のためのサポートが欠けていた。集積している利用履歴や満足度調査などに基づき、最適なバランスの分析を行う。また、運用面でのノウハウの蓄積と共有を目的としたユーザー会を立ち上げる。

解決策③

利用者の多いテキストを中心に、カスタマイズのサポートを制限した低価格コースの提供を検討

■ 会社概要

会社名	コトバンク株式会社 COTOBANK INC.
所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-15-12-301
代表取締役	小泉 純
設立年月	2008年8月
資本金	40,050,000円
事業内容	教育機関向けエンタープライズSaaS「RepeaTalk (リピートーク)」の企画・開発・運営、その他オンライン教育コンサルティング業務
主要取引先	株式会社アルク 教育開発出版株式会社 株式会社ベネッセコーポレーション 株式会社mpi松香フォニックス 株式会社ウイングローブ 浅野学園 他
主要株主	株式会社VOYAGE VENTURES



お問い合わせ窓口: <https://www.repeatalk-info.net> / info@cotobank.net